第18回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会

灰塚ダム定期報告書の総括

- ・ 第18回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会において灰塚ダム定期報告書の審議を行った。
- ・ 審議は、1．洪水調節、2．利水補給、3．堆砂、4．水質、5．生物、6．水源地域動態について、灰塚ダムが管理を開始した平成19年度から平成22年度までの期間を主な対象として分析・評価を行った。
- ・ 審議された各項目のうち、洪水調節、利水補給については、概ね所期の機能を発揮している。また堆砂については、特に大きな問題は生じていない。
- ・ 水質については、水質保全対策による効果が確認できるが、ダム湖内で毎年アオコが発生していることから、引き続きアオコ抑制に向けた検討を進められたい。また、流入河川の栄養塩の負荷が高く、湛水域には農地が多く存在していたことから、今後も調査を継続していくとともに、汚濁負荷低減に向けた流域関係機関との協力・連携を図られたい。
- ・ 生物については、生息・生育状況に大きな変化はみられていないが、特定外来生物であるオオクチバスやブルーギルがダム湖で確認されていることから、今後も引き続き駆除対策・低密度管理を進められたい。また、ダム下流河川では、底生動物の生活形態別分類で一部変化が見られることから、今後も調査を継続していくとともに、ダム下流河川の河床状況・河床材料等の調査・検討をされたい。
- ・ ダム湖上流部に整備したウェットランドでは、新たな湿地生態系が形成されつつある。
- ・ 水源地域動態については、調査・分析手法の充実を今後工夫してほしい。
- ・ 今後とも適切なダム管理を実施していくとともに、データの蓄積にあたっては、その活用が十分に図られるよう取り組み、生物環境・社会環境にも配慮したダム管理をされたい。